

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名	山地治山		路河川名等	
事業毎の通番	4	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)
				大洞(おおほら)
事業目的	H28年8月18日から19日の台風7号の接近に伴う豪雨により、唐沢川で激しい渓岸侵食が発生し、唐沢川を横断する林道虚空蔵線の床板(橋)が崩落した。また、渓岸侵食により山腹に小崩壊の兆しが見られる。下流には既設の谷止工が整備されているが、土砂が異常堆積している。このため、今後の降雨により渓岸の侵食が拡大し、大規模な山腹崩壊による土石流が発生する危険性が高いので、谷止工を整備し、流域の土砂災害の防止を図る。			
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等	森林法
関連する事業、計画等				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家15戸、市道砂原峠線200m、林道御岳堂線			
着手年度	平成29年度	事業期間	3年間	事業費(千円)
完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	1.49	財源内訳(千円)
				国庫 其他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	谷止工 3個		63,600	31,800 28,620 3,180
28年度事業内容(主な工種)	谷止工 1個		23,600	11,800 10,620 1,180
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	渓流内の土砂流出を防止することで、保全対象の安全が確保される。		
	間接的効果(定量的・定性的)	地域住民の安全・安心な生活環境の保全に寄与する。		
評価の視点	必要性	○人家戸数: 17戸 ○公共施設数: 3箇所 ○災害時要援護者関連施設の有無: なし ○保安林・林業用施設: 水源かん養保安林 100%	評価	A
	重要性	○過去の災害履歴: H28年8月台風等豪雨による土砂流出 ○交通遮断による地域経済への影響: 県道82号が遮断の場合、国道152号への迂回が必要 ○地域防災計画上の位置付け: あり	評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C): 1.49 ○事業期間: 3年間(H29~H31) ○工法等の比較検討: 工法の種別を検討する予定 ○流域の総合調整: 上田市、上田建設事務所と施工範囲等調整済み	評価	B
	緊急性	○流域の地形、地質: 第3紀層(砂岩) ○平均渓床勾配(平均山腹勾配)平均渓床勾配13° ○下流の堰堤等の整備状況: 谷止工2個 土砂が異常堆積 ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域: 崩壊土砂流出危険地区(A)	評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み: 林務部長へ早期の復旧要望あり ○地域の合意形成: 事業目的について地域合意形成は得られている ○住民との協働:	評価	B
	部意見	H28年8月の台風により不安定土砂が堆積しており、放置すれば下方人家等に流出する恐れがあり対策工事を行う必要がある。	行政改革課意見	流域内には不安定土が存在し、今後の降雨等により土流出の恐れがあるため、必要性、重要性、緊急性が認められる。

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

既設谷止工上流が不安定土砂で満砂している。

S63施工谷止工(コンクリート)

溪岸侵食状況(林道床板が被災)

谷止工計画位置

計画位置上部の溪岸侵食状況

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景
計画地は過去に溪流沿いの山腹崩壊等で土砂の流出があり、谷止工が2個整備されている。最上流にある谷止工の上流は土砂が異常堆積しており、上流の溪岸侵食等による土砂の流出が続いている。下流の保全対象の御嶽堂地区には唐沢川沿いに住宅団地が造成されたり、従前からの住宅が存在しており、ゲリラ豪雨による土石流災害が心配されている。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり
地元自治会等から上田市へ寄せられた要望箇所の現地調査を上田市森林整備課と地方事務所がH28年9月14日に実施した。H28年10月28日に上田市が林務部長へ早期の災害復旧の要望を行っている。

③事業説明等の経緯
現地調査の結果及び来年度計画の内容を12月8日上田市森林整備課に説明した。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連
市単林道復旧事業を計画

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮
谷止工の工事では、立木伐採を必要最小限に抑える。また、谷止工の施工中は廻排水を確実にし、沢水の汚濁を防止する。

⑥地域活性化への影響と配慮

⑦その他
なし

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 36-19-51
東経:E 138-15-05